

南の風

ふえーぬ風

発行 〒901-1115

沖縄県南部農業改良普及センター

TEL : (098) 889-3515

FAX : (098) 835-6010

南部地区農漁村生活研究会 50周年記念祝賀会開催される

南部地区農漁村生活研究会は、今年で設立50周年を迎え平成20年11月7日に「50周年を祝う会」を開催した。同会には、会員をはじめ歴代役員や関係機関等125人が参集した。当研究会は昭和33年1月10日に結成され、今日まで農家生活の改善をはじめ女性起業、都市農村交流、食農教育など、地域活性化の担い手として地域に根ざした活動を展開してきた。

今回の「祝う会」では、45周年以降（平成15年以降）の歴代会長の表彰や、全国段階で表彰を受けた活動事例が紹介された。

なかでも、活動事例については「2006年度農山漁村女性チャレンジ活動促進事業」で「優秀賞」を受賞した南大東村農漁村生活研究会会長の菊池涼子さんから、「島と共に歩む私たちの活動」と題して、農業青年クラブと連携して毎年「暮らしの工夫展」の開催や、機関誌「びろう樹」を発行するなど自主的活動の継続が表彰に結びついた報告のほか、「2006年度食アメニティーコンテスト」で「農林水産大臣賞」を受賞した栗国村農漁村生活研究会の安谷屋英子さんによる「島の魅力を発掘、受け継がれる活動」と題して地域の食材を生かした特産品を開発し、子供育成会や学校栄養士などと連携し、モチキビ収穫体験や野菜栽培を通して「食農教育」も手がけている事例の報告があった。



50周年の節目を歴代会長、関係機関と共に祝いました

また、当日は「50周年の節目に、今後の組織活動を考える」をサブテーマに、地区生活研究会の今後の活動についても意



玉城吉江会長によるあいさつ

見交換がなされた。組織では会員の減少、構成員の農家比率の低下、高齢化、リーダーのなり手不足等の課題がある。これを踏まえ、会長からは「組織活動検討委員会」を開催し、組織の再編や運営方法等について議論を深めている経過等が報告された。会員からは組織のあり方の意見が多く出されたが、結論には至っていない。

農業改良普及センターとしては、これまで、地区生活研究会の事務局を支援をしてきたが、従来の方法では支援が難しく、50周年を節目に会員一人一人の合意形成を図りながら自主的活動への誘導をすすめている。

また、各市町村では生活研究会の活動が地域活性化を担う組織としてしっかり根付き、今まで培ってきた生活技術を地域に広める指導的役割に加え、地産地消の推進に期待が寄せられている。

(普及企画班 垣花)



リーダー研修会でこれからの組織活動について検討



冬春期の野菜

これからの栽培管理と病害虫防除



●かぼちゃ

これから、北風の影響を葉に受けやすい季節になります。防風ネットやソルゴー等で風対策を行うことで、葉枯れ症や去年大発生した水浸果の対策になります。またトンネルのビニールも3月いっぱいまで残すよう工夫して下さい。病害虫に関しては、うどんこ病、ハモグリバエ、ウイルス病への対策が重要になります。生育時期に応じた薬剤散布を心がけて下さい。特に、うどんこ病に関しては、降雨後の晴天に蔓延するので、降雨前後の防除を徹底しましょう。



防風ネットの設置

●インゲン

インゲンの生育適温は15～25℃で、12℃以下になると不稔莢が増え、風速5m以上になると生育に障害が出ます。冬場はこれらの対策として、ネットによる被覆や側面のビニール被覆を行いましょう。葉は展開して、20～30日が働きのピークです。下葉、古葉から摘葉し、通気や採光をよくすることで、病害虫予防につながります。また、去年2月に発生した褐変症（温度障害）の対策として、側窓管理が有効です。特に、放射冷却等で早朝のハウス内の温度が外気より低い場合、側窓を早めに開け外気温と馴染ませることで、この症状を避けられます。

●ゴーヤー

ゴーヤーの生育温度は17～28℃と範囲は広いのですが、気温が低すぎると着果不良や曲果になり肥大も緩慢となるので、ハウスの保温に努める必要があります。

また、ハウス内が乾燥気味の日が続くと、うどんこ病・ホコリダニ類の発生条件となりますので、早期発見、早期防除に努めてください。うどんこ病は直射日光が当たるところより、日陰になる部分に発生が多いので、下葉や日陰になる部分を中心に観察して早期防除に努めましょう。

チッソ過多は発病を促進しますので、チッソ肥料

の適正化を図ることが大切です。

チャノホコリダニは新芽や新葉の部分に好んで発生し、葉にウイルス病に似た奇形症状が発生するので早期防除を行って下さい。



うどんこ病

●トマト

9月～10月に定植したトマトは3～4段の果房が着果して一番果の収穫が始まっています。玉は3～4個に定め摘果は早めに行います。また傷が深くないように摘枝も早めに行い、誘引も適宜行います。交配はホルモン処理の場合は濃度、回数に気をつけます。マルハナバチの場合は飛び交う環境条件を作り、薬剤散布に気をつけて下さい。トマト黄化葉巻病は確認してから2年目になりますが、早植えに多発生が見られます。

防除対策として媒介虫のタバココナジラミの防除が大事です。①定植時の株元に粒剤の施用、②ハウスの被覆は紫外線カットフィルムで行い、③天窗、側窓、出入り口は0.4ミリネットを使用④ハウス周辺の雑草、野生えトマトを除去し、遮光シートを設置、⑤ハウス内には粘着トラップで進入した媒介虫を捕殺する。⑥トマト栽培ハウスの出入りは媒介虫が進入しないように気を配ること。⑦発病株は早期に抜き取りして処分する。

トマト黄化葉巻病の撲滅は難しく、まずは感染源がハウス内に入らないよう自己責任で管理することです。トマト栽培ハウス団地周辺の感染源は地域全体で除去していきましょう。



トマト黄化葉巻病(株)



ミニトマト栽培



デンファレ ~冬季の管理の要点について~



1. 光量管理

デンファレの最適照度は3~5万ルクスです。野外照度は冬の晴天日では約8万ルクス、雨及び曇天日では約2万5千ルクスとなっています。

3~5万ルクスを目指すには天気に合わせて遮光率を変えていかななくてはなりません。

- ①遮光ネット1枚で管理する場合は、遮光ネットは内部に張り、曇り、雨の日には開けます。
- ②特に光合成の盛んな午前から午後3時頃までに十分に光線を確保することが理想です。

2. 温度管理

デンファレの生育適温は昼間25~30℃、夜間25℃です。

- ①11月中旬以降は、夜温が20℃以下になることが多いので、気温の高い午後3時頃から保温に努める。
- ②日中、施設内の気温が25℃以下の場合は、日中も施設を閉めて保温する。(25℃~35℃)
- ③冬季は一日の天候変化によるハウス内温度の変化が激しく、ハウス密閉による高温障害(花落ち等)が発生しやすいので、天候変化に合わせて温度管理をまめに行う。

3. 湿度管理

デンファレの最適湿度は70~80%です。

- ①湿度はかん水を行うことにより上昇するので、相対湿度を高めるために晴天日日中のかん水は10時頃までに行う。湿度の上がりやすい施設では、夜間の保温の際に、完全に閉め切らず、風下側を少し開放しておく。
- ②冬場の低温期には夜間100%近くの飽和状態となるので湿度を下げるように管理する。低温期の高湿度は灰色かび病の発生を助長するので予防対策を徹底する。

4. かん水管理

- ①「年間を通して、根腐れを生じさせないレベルで通気性を図りつつかん水を行う」ことが大切なポイント。
- ②冬季は水分吸収力も低下し、夕方かん水は夜間湿度の上昇や鉢内温度の低下を招くので、晴天日の日中にかん水を行う。
- ③生殖成長期(9月~12月)は、栄養成長期(3月~9月)ほどの水分要求量はないが、晴天日の日中は高温乾燥により切花の品質を悪くするので、極端な乾燥管理は避ける。
- ④冬季の生育停滞期は曇天や雨天日の低温、寡日照により湿度は高くなるため、培地が湿った状態であればかん水を控え、晴天日は日中のかん水を行う。

5. 施肥管理

デンファレの養分必要量は株の大きさ、生育ステージ、栽培品種により異なる。光合成は気象環境の影響を受けつつも毎日行われている。そのため、生育に必要な養分も常に吸収できる状況にあるのが望ましい。すなわち、「年間を通じて、各生育ステージ毎に必要な養分が常に適正濃度と割合で根域に存在する」ことが必要である。





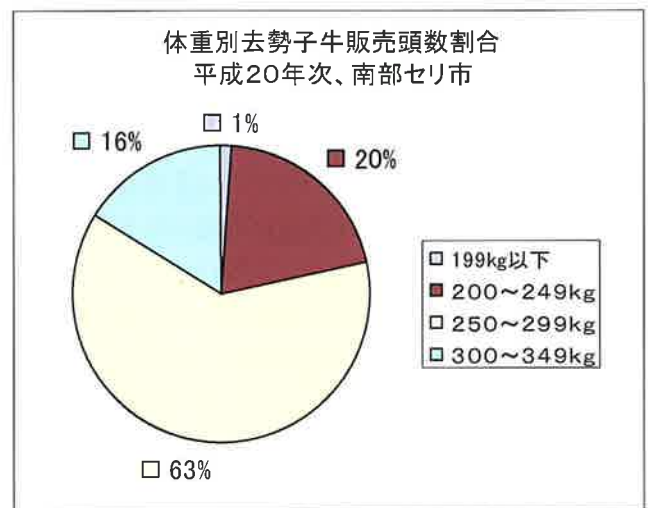
和牛子牛の体重別のセリ値

☆子牛は順調な発育をしていますか？☆

平成20年次南部家畜市場における体重別の子牛セリ価格は去勢牛で、体重が199kg以下は18万円台、200kg～249kgは34万円台、250kgから299kgは41万円台、300kg以上は45万円台と199kg以下が極端に安く、体重が増加するに従い徐々に高くなっていく傾向がありました。このことから、購買者は骨格がしっかりした発育（基準は体高や体重）の良い子牛を求めていることがわかりました。

子牛平均価格は去年までは45万円まで高騰していましたが、最近では、32万円まで暴落しております。このように、暴落した時こそ発育の良い子牛を作り、より高く売りましょう。

発育の良い子牛をつくるには、牛舎の掃除をまめに行うこと、初乳を早く、適量給与すること。良質粗飼料、子牛用飼料を十分に給与することが重要であります。そこで月齢にあった給与量の標準例を記載しますので、これを参考に良い子牛を作る技術を確認しましょう。



十分に配合飼料、良質粗飼料を給与しましょう。

ステージ		ほ乳期				離乳期		育成期				
月齢		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
日齢		0~	20~	45	60	90	120	150	180	210	240	270
体重(kg)	去勢	34	54	79	93	123	153	182	206	247	271	301
	雌	29	46	69	82	108	134	160	186	213	229	266
配合飼料		人工乳		育成飼料								
粗飼料		良質乾草(チモシー等)										
給与量(kg/日)	去勢	人工乳	0.1	0.2	0.5	1.0	1.5					
		育成飼料					2.6	2.8	3.2	3.5	3.8	4.0
		良質乾草			0.2	0.5	1.0	2.5	3.0	3.4	4.0	4.2
	雌	人工乳	0.1	0.2	0.5	1.0	1.5					
		育成飼料					2.2	2.4	2.6	2.8	3.0	3.2
		良質乾草			0.2	0.3	1.0	2.2	2.7	3.1	3.5	3.8

ぐしちゃんいもの生産振興と地域活性化をめざして

～ 農山漁村シニア活動支援 ～

南部農業改良普及センターでは、シニア農業者が生き甲斐を持って農業に従事し農漁村の維持・活性化に貢献することを目的に農山漁村シニア活動を支援しています。今年度、八重瀬町のぐしちゃんいも生産組合やぐしちゃんいも研究会など甘しょ生産農家を対象に、ぐしちゃんいもの品質向上、及び「ぐしちゃんいい菜」の栽培や利活用など生産農家の活動を支援しています。主な活動は以下のとおりであります。

①ぐしちゃんいい菜の栽培

甘しょの茎葉部分にビタミン・ミネラル・ポリフェノールを含み、栄養面や機能性に優れていることから、沖育01-1-7の茎葉部分（ぐしちゃんいい菜：生産組合で命名）を夏野菜として見直そうと、防虫ネットを利用して農薬を使用しない栽培に取り組みました。



ぐしちゃんいい菜（沖育01-1-7）栽培講習会

②ぐしちゃんいい菜の調理

「ぐしちゃんいい菜」は、茎が35cmもあり、筋がなく、柔らかいことが特徴です。地域では、カンダバーをジュースや味噌和えとして食していましたが、近年若い人には馴染みが薄くなっています。「ぐしちゃんいい菜」の葉や茎を炒め物や肉巻等に利用した調理方法の講習会を開催し、葉だけでなく、茎の部分まで柔らかく美味しい食材であることを知ってもらいました。

③ぐしちゃんいい菜の販売促進

「ぐしちゃんいい菜」の食べ方を、多くの方々に普及しようと、直売市（かりゆし市）やイベントにおいて茎の和え物の試食とレシピ提供を行い販売促進を支援してきました。栽培農家の上運天さんは、「最初は売れ残りもあったが、料理法や美味しさを知っ

てもらい今では好評。来年は面積を増やしたい。」と語っており、栽培に意欲的です。

④ぐしちゃんいい菜の学校給食への利用

食育と地産地消の面から、具志頭校区の給食メニューの食材として出荷し好評でした。東風平校区でも使いたいとの意向もあり、広がりつつあります。

⑤ぐしちゃんいい菜収穫・調理・味わい体験

いも生産組合では、県内の園児を対象に芋掘り体験を行っています。今後、県外からの参加者も予想されることから町としての受け入れ体制の整備が求められています。今回、生産農家と町内の起業者が連携してモニターツアーを開催しました。今後、史跡等の地域資源を含めた体験メニューの開発や受け入れ体制づくりに繋げていく等、意見交換がなされました。



「ぐしちゃんいい菜収穫・調理・味わい体験」

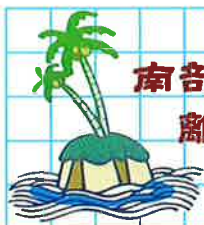
これらの活動を通じて、甘しょ生産農家の意識が



ぐしちゃんいもシニア活動検討会

高まり、高品質の甘しょ生産、「ぐしちゃんいい菜」の栽培拡大、販売促進や利活用による地産地消の推進、農業・農村体験受け入れによる

地域活性化等の課題に取り組んでいこうと意欲的です。普及センターでは、甘しょの生産振興に向けて、関係機関と連携を強化し、農家の活動を支援していきます。



南部の 離島情報

さとうきびとの輪作による 完熟かぼちゃの生産をめざそう!!

北大東村はさとうきびの島で、機械化一貫体系による栽培が確立され、今期は豊作が期待されている。今回は、さとうきびの輪作作物であるかぼちゃ栽培について紹介します。

北大東村のかぼちゃ栽培は5年前に始まった。現在、部会員は24名で、導入当初は、JA津嘉山支店の技術をベースとした指導からのスタートであった。指導内容は、①栽培面積は30a以下にする、②防風対策を行う、③栽培の適期肥培管理を行う、④収穫時に完熟かぼちゃであることを確認することである。具体的には、

- ① 栽培面積の制限について、かぼちゃ栽培の管理作業を徹底することにより高品質のかぼちゃづくりができ、小面積栽培とした。
- ② 防風対策は、約5m毎に2～3条のさとうきびで暴風垣を作り、株や蔓を傷めないようにする。なお、さとうきびは春植え苗として活用する。
- ③ 適期肥培管理では、植え付け前の緑肥、堆肥の施用、点滴チューブを活用したかん水、側枝の除去、敷き草、定期的な農薬散布による病虫害対策、決められた着果節位の遵守等、又果実の日焼け対策として新聞紙で果実を被覆する。
- ④ 完熟かぼちゃの収穫に当たっては、目揃いや試食を徹底し、未熟果を防ぐこと。
- ⑤ なお、植付準備時期となる9月から収穫後、6月までは、栽培指導や現地検討、意見交換等を行い、技術の向上を図ること。



さとうきび垣による風対策

○栽培の工夫事例

今年で5年目の栽培で、面積は昨年の6haから8haに拡大した。又、1株1果から2果を目指して単収向上に努めている。栽培の要点として、

- ① 点滴かん水が普及している為、直播きを行い株間は点滴かん水幅50cmに合わせている。
- ② 敷き草にはススキ、さとうきび枯葉、月桃、ソルゴー等を利用している。
- ③ 完熟かぼちゃを目標としているため、収穫時期には、試食を必ず行い、色と食味をチェックし、収穫に取りかかる。

○JAの一元出荷である。

「北大東村産のかぼちゃ」が市場で評価されることを目標に、共同選果や品質管理を部会で取り決め、JA北大東支店を通じた一元出荷を行っている。

○キジ被害対策

かぼちゃの芽と子葉はキジの食害によって大きな被害を受け、栽培を断念した農家もいる。その対策として、案山子、CDや缶のつり下げ、ネット張り、ペットボトル等を活用して被害軽減に努めているが、決定的な対策がない状況にある。

それにもめげず、部会のメンバーは完熟かぼちゃにこだわり、品質向上に熱心に取り組んでいる。

かぼちゃはさとうきびの輪作作物として、今後とも期待されている。

(北大東駐在 桐原)



ハーベスターによるさとうきび収穫状況



頑張る! 踏ん張る! 認定農業者! 豊見城市認定農業者連絡協議会の活動

豊見城市認定農業者連絡協議会は、平成15年度に結成され、現在、会員数148人、会長の大城吉徳氏を中心に活動しています。

同協議会の活動は、総会、視察研修、農業委員会との意見交換会、経営改善計画書作成会などとなっています。今回は、その活動内容を紹介したいと思います。

まず、視察研修は、他事例を学び、各自の農業に生かすための学習の場と考え、宜野座村のエコ野菜研究会の取り組みや支援方法等を学びました。また、沖縄県立農業大学校では、大学のカリキュラムや圃場を見学しました。ほ場においては、豊見城市出身の学生による栽培技術の説明を受けて、同じ市民として学生に対し激励のエールを送る温かい一幕も見られました。

総会では、役員や会員の意識向上を図り、組織活動に一丸となって取り組むことが決議されました。

また、農業委員との意見交換会では、会長の比嘉氏より、「男女共同参画の観点からも、お母さん達も認定農業者として認定され、この席が、もっと華やかになるよう頑張っていきましょう」との愉快的挨拶がある等、情報交換がなされました。

経営改善計画書作成会では、豊見城市役所にて認定農業者の再認定や新規の経営改善計画書の作成が行われました。

会員は、自分の経営内容を考えながら申請書を記入しているものの、経営改善計画書の経費など数字の部分の農業経営計画策定になると手が止まるなど質問が多く、戸惑っている農家もみられました。

また、認定切れで、後継者や夫が認定農業者になっている農家もあり、「自分は別に認定農業者にならないといけないのか」等の質問もあり、経営がひとつなら家族経営協定による共同申請を行えばよいと説明すると納得し、家族経営協定書の内容や申請書の記入方法を確認する農家も見受けられました。

今後の課題として、農業委員から認定農業者への理解を深めていく他、認定切れの方が再認定されるようなシステムづくりが必要です。今後とも、協議会による自主的活動が展開され、認定農業者ひとりひとりが生き生きと活躍出来るように、活動を盛り上げ、そして、一人の小さな力を束にして大きな力になる協議会が推進できるよう期待しています。

(普及企画班 座喜味)



農業大学校にて、果樹栽培について学ぶ



経営改善計画書の作成会

平成20年度 沖縄県指導農業士等認定

「指導農業士：宮平聰さん・熱田守さん」



平成20年度 沖縄県農業士等認定式

平成20年度の沖縄県指導農業士及び女性農業士の認定式が10月16日に八汐荘大ホールにおいて行われました。南部地区からは南城市宮平聰氏、熱田守氏2名が認定されました。ご両人の経営内容は右上のとおりです。

沖縄県指導農業士等認定制度とは、将来の地域農業を担う中核的農業経営者の養成と農業青年の



指導農業士：宮平 聡 氏
みやひら さとし
 きく、オクラ、インゲン等効率的に栽培に取り組んでいます。JA野菜生産部会では、役員を務め新規就農者の研修受け入も行っています。また、家族経営協定を締結し、夫婦共に認定農業士となり、地域農業の活性化に頑張っています。



指導農業士：熱田 守 氏
あつた まもる
 マンゴー、パッションフルーツ等の果樹を栽培し、区長、農業委員、南城フルーツ研究会事務局を務め、地域のリーダーとしても活躍しています。また果樹の技術向上と新規就農者の研修受け入れも行っています。

実践的育成指導に当たる先進的農業経営者の育成を図るため、地域のリーダーとしての誇りと自覚の基に高い社会的評価を得て活躍し得るよう「青年農業士」及び「指導農業士」並びに「女性農業士」を認定するものです。

今後とも地域農業の発展や後継者育成、農地域農業の牽引役として活躍が期待されています。

(普及企画班 神谷)



がんばれ！ニューファーマー

～農業はやりがいがある！～

～新規就農者
紹介コーナー～
南風原町



野原 哲治さん

冬春季のトマト

今回は、野原哲治さん(44歳)を紹介します。

野原さんは、南風原町で約1,200坪のハウスにゴーヤーとトマト、その他ヘチマなどを生産しています。父親の広仁さんはゴーヤーづくりの名人。幼い頃から父の手伝いをしながら少しずつ技術を学んできました。大学卒業後は、他産業に就職し、サラリーマンとして活躍、その間に結婚、2人の子宝に恵まれました。

就農前、親の手伝いをしている頃は、農業の苦勞を知り、他産業に就職しました。サラリーマンを経験する中で農業はやりがいのある職業だと気がつき、

やる気が出てきました。

平成18年10月に、意を決して親の跡継ぎをするため就農しました。就農してからは、毎日が新鮮で自ら学び、積極的に実践しています。そして、農業大学のサポート講座などを通じ、営農へのモチベーションが高まり、目標ができました。

その目標は「5年以内に一人前になる事。将来の夢はこだわりのある安全・安心の野菜を消費者へ提供することです！」ときっぱり話す。

夢に向かって頑張ってください。ニューファーマー。

(普及企画班 根路銘)



夏季のゴーヤーについて
普及指導員から指導を受ける